

都心で何と限界集落再生についてのフォーラムが開かれ、全国各地からとはいえ、東京を中心に首都圏からの参加者が多くを占める中、会場は満杯となった。もはや限界集落問題は農山村だけの問題ではなく、全国、都市の問題としても認識されつつある流れを感じさせられるものであった。

この11月中旬、東京の秋葉原で「限界集落イキイキ宣言！キックオフフォーラム」なる催しが開かれた。200名ほどが収容可能な会場は満員で、熱気あふれるフォーラムとなった。しかも終わってから、おそらくは参加者の半分以上が参加したであろう大懇親会となったのには驚かされた。それこそ肩と肩が触れ合うほどに席を詰めて座り、立錫の余地なし。そこで参加者は11時近くまでビールやワイン等を酌み交わしながら熱く交流。散会してからもしばらくは熱気が冷めやらなかった。

「水源の里」

このフォーラムは全国水源の里連絡協議会が開催したもので、2007年に設立され、現在179の市町村が参画しているという。農山村の多くは「過疎・高

じて「水源の里の集落再生と振興に向けた積極的な事業の展開」をめざしている。本格的な活動はこれからということであろうが、「水源の里」というネーミングに大いに共感するとともに、流域連携による活性化を目指す方向にはもろ

時流を読む
田舎というフロンティア
農山村への熱いまなざし
農的デザイン研究所代表 蔦谷 栄一

齢化が進行し、コミュニティの維持など、地域活動が困難な状況に直面」しており、「限界集落」とも揶揄されているが、これを「水源の里」と呼び、「上流は下流を

思い、下流は上流に感謝する」という理念を掲げて、流域連携を通

手を挙げて賛成である。

高い農村の出生率

ここでフォーラムで出された話の中から二つだけ紹介しておきたい。一つは、農村部の出生率は都市部のそれを上回るという統計的

事実である。都市部では家賃が高く保育園も少ない。仕事さえあれば田舎で生活し、子供を産みたいとする人も多い。都市から農村への人口還流をすすめていくことが全体での出生率を引き上げることにつながる、という。

もう一つは、京都市綾部市の場合であるが、中学生の半分以上はいったん都会に出て、いずれはUターンして綾部に戻ってきたという。このネットクになってくるのが親で、「都会へでて偉くなれ」「金持ちになれ」と、高度経済成長時代の価値観にとらわれている人が多い、という。

都市住民に間口を広げて

都市住民の田舎を見るまなざしは確実に変化しつつある。田舎になかなかなじまない人も少なくはないが、田舎の側ももっと誇りをもって、都市住民の還流に間口を広げていくことが必要であろう。「田舎というフロンティア」を都市住民も交えて切り拓いていく時代が到来しているように思う。